

2025 年 10 月 29 日作成 Ver.1.1

《情報公開文書》

電気けいれん療法前後の精神疾患患者の血清中脂質代謝物量の比較解析

研究の概要

【背景】

精神疾患は、気分の落ち込みや不安などを引き起こす病気ですが、その原因はまだ十分に分かっていません。治療の一つである電気けいれん療法（ECT）は、重いうつ状態などに対して効果が高く、短期間で症状が改善することが知られています。近年、精神疾患では「体内の炎症」や「免疫の働きの変化」が関係している可能性が報告されています。私たちはこれまで、ECT の前後で血液中のたんぱく質や代謝物が治療によって、それぞれの量がどれくらい変化するかを調べました。

【目的】

今回の研究では、ECT の前後で脂質代謝物であるジアシルグリセロール（DAG）や総脂質量を詳しく解析し、免疫や代謝の変化と症状の関係を明らかにするとともに、精神疾患の診断や治療評価に役立つ物質であるかどうかを明らかにすることを目的とします。

【意義】

DAG の変化を調べることで、体の中で起こる免疫の反応や代謝の働きの変化をより深く理解でき、将来的に治療効果を客観的に評価できる新しい指標の開発につながることを期待しています。

【方法】

本研究では、前研究で収集・測定した精神疾患患者血清の既存情報を二次利用し、ECT 前後の DAG 値または DAG 補正值を比較します。前研究における測定は、高精度な分析方法を用いて実施されました。また、健康な方のデータについては、新たに採血を行うのではなく、これまでに報告された論文の中の健常者データを参考として比較します。

対象となる患者さん

本研究では下記の前研究で実施された既存情報を使用します。

「血清中免疫複合体解析による電気けいれん療法前後の精神疾患患者の比較解析」（長崎大学病院臨床研究倫理委員会許可番号 24121202）の研究に参加した患者さん

「HPLC によるリン酸エタノールアミン測定法の確立と臨床への応用」（福岡大学倫理委員会許可番号 U20-10-001）の研究に健常人として参加された方

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を収集します。

- ・「血清中免疫複合体解析による電気けいれん療法前後の精神疾患患者の比較解析」

性別、年齢、罹患期間、発症年齢、エピソード数、緊張病、ECT 施術理由、PANSS スコア、HAM-D スコア、CGI-S、ECT の施術回数、タンパク質同定・定量結果、ECT 前後の DAG 値または DAG 補正值

- ・「HPLC によるリン酸エタノールアミン測定法の確立と臨床への応用」

性別、年齢、DAG 値または DAG 補正值

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 12 月 2 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2029 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学病院 薬剤部
氏名：大山 要
住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
電話：095（819）7245

情報の管理責任者

長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院薬剤部 大山 要

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7245

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）